

## 【「電気を送る、配る、届ける」送配電という仕事 ～電気科出前授業～】

令和5年7月5日



6月28日(水)に本校卒業生で、関西電力送配電株式会社に勤務し、淡路配電営業所に配属されている御幡慶也(みはた けいや)さんをお招きして電気科の出前授業が行われました。日頃の仕事内容や、体験、やりがい、心構え等について貴重な話をしてくださいました。

御幡さんが従事している送配電の仕事の一つに、台風などの災害等で停電が発生したときの復旧工事があります。そういう非常事態に備えて、停電情報を常に意識し、停電があればいつでも出動できるように心構えをしているそうです。使命感や責任感、プロ意識が大事な仕事です。そして、市民から「ありがとう」や「お疲れ様」などの声をかけられると非常にやりがいを感じ、力になるそうです。人々の生活にとって欠かせない電気を届け、暮らしを安心・安全に保つという尊い仕事だからこそだと思います。

もちろん苦勞もあるそうです。危険と隣り合わせなので、日頃の点検・確認などの安全意識を醸成しなければなりませんし、絶縁体でできた作業着の装着に慣れなければなりません。とても重く、夏は暑いそうです。また、仕事を充実させるために技術力向上や資格取得など、様々な努力も必要であるとのことでした。



しかし、それらも使命感や家族のために努力や工夫で克服してきました。心がけていることは、「仕事と家族の両方を大切にすること」だそうです。社会人の先輩の言葉として皆さんには非常に参考になりますね。入社試験での面接についてもアドバイスがありました。「ハキハキしゃべること」「コミュニケーション能力が大事」ということでした。今回の授業では、身近な先輩から多くのことを学ぶことができました。自分のモチベーションを上げる絶好の機会になったことと思います。御幡先輩、ありがとうございました！